

	和名(別名)	科名	備考		和名(別名)	科名	備考
1	イチイ(オンコ、アララギ)	イチイ科	針葉樹	4	ブンゲンストウヒ(コロラドトウヒ)	マツ科	針葉樹(外来種)
							
	常緑針葉樹の高木で、樹高15から20メートル、直径1メートルに達する。直幹性で分枝が多いが、風衝地では低木状になる。成長が遅いので、大きな個体は珍しい。陰樹で耐陰性および耐寒性が強く、湿性を好む。葉は長さ約2センチ、幅約2ミリの線形で、らせん状につく。先端はとがるが、にぎっても痛くない。葉裏には淡緑色の気孔帯が2条あるが、目立たない。よく似ているカヤやイヌガヤに比べて葉が短く、やわらかいので、区別がつく。				野生のものは、全長20mを超えて成長するが、公園や庭園に植えると5-15m程度の大きさに留まる。樹形は円柱-円錐形を基本とし、水平に枝を分枝する。枝が黄褐色、幹は灰色のうろこ状の樹皮で覆われる。葉は、長さ3cm程度の針状で、枝に対して全周性・放射状に付き、表面に青い粉上のワックスを伴っている。球果(実;コーン)は、淡褐色で長さは10cmのものを付ける。ブンゲンス(pungens)は、「鋭くとがった」を意味し、その葉の形状に由来している。コロラド州のシンボルツリーにも指定されている。		
2	トドマツ(アカトドマツ)	マツ科	針葉樹	5	カラマツ(ラクヨウ、ニホンカラマツ)	マツ科	針葉樹(外来種)
							
	北海道を代表する亜寒帯の針葉樹で、樹高20～25メートル、直径50センチに達する。幹は直立し、樹冠は円錐形で、階段状に輪状に密生した枝が水平または斜上する。梢をみただけで遠くから識別できる。春先の明るい緑色の新葉の姿は優しく、美しい。				カラマツはマツ科の中では珍しい、落葉性の高木。樹高は30m近くになり、直径も1mを越えるものがある。葉は線形で長さ2～3cm。短枝では葉は円形に配列され、枝先などの長枝では螺旋状に配列される。花は5月頃に咲く。和名は葉の付いた様子が唐文様に似ているとの意味であり、落葉するので落葉松、富士山に生育するのでフジマツの別名もある。秋には黄葉し、春は新緑が美しい。		
3	アカエゾマツ(ヤチシンコ)	マツ科	針葉樹	6	バンクスマツ(バンクシアナマツ)	マツ科	針葉樹(外来種)
							
	アカエゾマツは北海道と東北地方の一部、南千島、樺太に分布する常緑針葉の高木。北海道の主要な樹木の一つであり、道内では特に北部と東部で多い。大きなものは樹高20m以上、直径1mに達し、エゾマツやトドマツなどと共に針葉樹林を形成する。樹皮は不規則に剥がれてささくれ立つ。色は赤みがかったいて、本種のわかりやすい特徴の一つである。名前の「赤蝦夷松」は、北海道に生え樹皮の色がエゾマツに比べ赤いことによる。				常緑針葉、北アメリカ原産。高さ20mほどに成長する。球果が長く枝に残る。枝先が曲がることが多く、樹形は不整形になる。針状の葉は2本1束で枝に付く。葉は僅かに湾曲しており、色は僅かに黄色みを帯びた緑色。成木の樹高は9-22 mと幅が大きい。条件が悪い場所では成長が悪く、低木並みのところもある。樹冠は不規則で、四方八方に枝を伸ばすがしばしば見られる。樹皮は白っぽい灰色で鱗状に荒く裂ける。		